



地域防犯に貢献してきた大遊協が 新たに始めた青パト車両の寄贈

大阪府遊技業協同組合 「『青パトが見まもる 大阪のまちづくり』支援」事業



大阪府遊技業協同組合
理事長
平川容志さん

選考理由

今回のこの部門の最優秀賞には、大阪府遊技業協同組合の防犯関連事業が選ばれた。広範にわたる活動には、10台もの「青色防犯パトロール車両」の寄贈、8ヵ所での「車上狙い・ひったくり撲滅キャンペーン」の実施、ホールでの防犯カメラの設置などが含まれており、警察、防犯協会などと緊密に連携して実施され、顕著な成果をあげてきている。3千万円近くにのぼる事業資金、ホール関係者の積極的参加など、本事業の卓越した取り組みには審査員全員の高い評価が与えられた。第6回に次いで2度目の受賞であり、関係者の努力に敬意を表したい。

社会貢献活動審査委員会
委員
野口昇氏



子どもたちの安全・安心確保に役立つ 青色防犯パトロール車両を10台寄贈

安心・安全なまちづくりへの協力を社会貢献活動の柱の一つに掲げ、支部組合や組合員ホールと一体となって様々な事業に取り組んでいる大阪府遊技業協同組合（以下、大遊協）。昨年、大遊協が新たに取り組みを始めたのが、地域における防犯活動、とりわけ子どもたちの安全・安心を守る青色防犯パトロール車両の寄贈事業である。これは、2003年から大阪府と大阪市を通じて福祉施設（障がい者・児童養護など）に寄贈してきた福祉車両が目標である200台に達したことを受け、それに代わる新たな社会貢献活動としてスタートしたもの。

大遊協では、まず、この事業の窓口となる大阪府治安対策課に依頼し、寄贈先となる市区町村の選定に着手。その結果、パトロール活動の実績、地域のボランティア団体などが行うパトロール活動に対する行政のバックアップ態勢の整備などの観点から、初年度として大阪市此花区、同東淀川区、同東成区、枚方市、茨木市、泉佐野市、泉南市、熊取町、太子町、河南町の10市区町に各1台、計10台の寄贈を決定した。

昨年9月27日に大阪城公園内で松井一郎大阪府知事出席の下で行われた贈呈式後、10市区町に贈られた青色防犯パトロール車両は、小学校区単位にある地域の安全センター、防犯活動に取り組むNPO法人、学生ボランティア団体などに無償貸し出しを行っているところもあり、各市



10市区町に各1台、計10台の青色防犯パトロール車両を寄贈



松井一郎大阪府知事も参加して行われた贈呈式



「ひったくり撲滅キャンペーン」はタ刊フジの特集記事で大々的に紹介

区町の貸し付けを受けた団体の責任の下で管理・運営されている。12月末時点での調査によれば、10台でのべ1万7,100km以上の走行だという。「装備や装着品がよく整備されており、パトロール車であることが認識されやすいため、地域に安心感を与えているという評価をいただいている。2017年度も8台を寄贈することが決まっているが、今後も継続的に実施することで安全・安心な大阪のまちづくりに貢献していきたい」と、大遊協の副理事長で、善意の箱・社会貢献担当の金森浩年さんは今後の抱負を語った。

車上狙い・ひったくり撲滅のために 防止カバー取り付けキャンペーン

大遊協の地域防犯活動としては、2006年度に大阪府警察本部の要請に応える形で、自転車の前かごに取り付けるひったくり防止カバーを製作し、大阪府防犯協会連合会へ寄贈する活動を開始したことがあげられる。昨年度までの11年間で合計29万8,500枚を製作している。

また2008年度からは、単にカバーを寄贈するだけでは実際に取り付けられない人もいるため、街頭に出て直接、府民に車上狙いやひったくりの被害防止を訴えとともに、その場でひったくり防止カバーを無償で取り付け・配布する「車上狙い・ひったくり撲滅キャンペーン」を展開している。毎年10月11日～20日の全国地域安全運動期間に合わせ、府内各警察署と協力して行われるもので、昨年度の8ヵ所を含め、これまでに大阪府下でのべ85ヵ所で行われている。

さらに2011年からは、ひったくりや車上狙いなどの街頭犯罪の抑止を図るため、組合員ホールの店舗外壁に防犯カメラを設置し、事件発生時に警察の要請に応える形で録画映像を提供する活動も始めている。

こうした活動について、金森副理事長は、「ここ10年で大阪府の街頭犯罪件数は約半分、ひったくりに関しては85%減少した。多少なりとも防犯活動に貢献できたのではないかと。それでもまだ、ひったくりは6年連続で全国ワーストワン。その汚名を返上するまで頑張りたいと思っています」と話す。